

「ロータリークラブに期待するもの、そして私の目指すもの」
鈴木美穂（静岡産業大学 情報学部 情報デザイン学科）

私は生まれも育ちも藤枝で、緑豊かで親切な心温かい人の多いこの町が大好きだ。

藤枝ロータリークラブの講座を受けることになって、それまではあまり関心は無かったけど、気をつけて見てみると、様々な場面でその活動を知ることが出来た。例えば、駅前広場に六角ベンチを寄贈したり、子供達を中心となり企画される「スマイルキッズタウン」を開催するなど、「奉仕の理念」を追究して、様々な事業を行っている藤枝ロータリークラブは、活気にあふれ、地域の輪の広がり大きく貢献していることに驚いた。

この講座を受講し、特に印象深かったテーマがある。土屋富士子先生の「出会い」についてである。土屋先生は、人間の一生は出会いにより変わっていき、一度の出会いは貴重で奇跡的なことである、とおっしゃった。その一度の出会いをいいものにするため、自分の心を開いて相手と向き合うことが大切だということに気づくことが出来た。また、出会いに年齢は関係無いということ。土屋先生が実際にされている、妊婦のお腹の中の赤ちゃんに「元気に生まれてきてね。また会おうね」と話しかけることを私もやってみようと思った。自然体であることを意識し、些細なことでも笑い合い笑顔で過ごせば、周りの環境も明るくなり、自分も毎日が楽しいと感じられる。困難に直面しても、励ましてくれたり助けしてくれる人や、自分が一生懸命取り組んできたことを見守り、功績として認めてくれる人の存在は、自分の大きな糧となる。それだけ、人と出会い、心と心を向き合わせることは、生きていく上で重要であるとともに、いい出会いに繋がるのだと思う。

私がロータリークラブに期待するものは、小さい子供からお年寄りまで、すべての人々が笑顔で明るく暮らせる街づくりである。毎日楽しく過ごし、また事業やイベントを通じて、「藤枝っていい街だなあ」と誰もが思う街となることに期待を抱いている。そして私は、藤枝市出身のサッカー日本代表長谷部誠選手のような、地元を盛り上げ、多くの人々に希望や感動を与える影響力のある人になりたいと思う。私はサッカーが得意ではないし、世紀の発明をするほど頭が良くもない。しかし、人と話すときは必ず笑顔で接するように心がけている。自分が笑顔でいれば相手も笑顔になるということを信じ、人々に笑いの絶えない幸福な場を提供したいという思いからである。

私は現在、セブンイレブンの店員としてアルバイトをしている。近くに高校があるので、高校生を中心に老若男女様々な方がお店を訪れる。私はアルバイト中の接客は、どんなに疲れていたり落ち込んでいても、笑顔で明るく対応するように心がけている。お客様一人一人との出会いを絶対嫌な出会いにたくないからである。私の中では特に、スターバックスコーヒーの店員がお手本だ。その店員の方々は、静岡や東京、修学旅行で訪れたイギリスなど、どの店舗でも親切で丁寧な接客をしてくれた。笑顔で挨拶してくれ、「こちらのメニューは大人気なんですよ」と気さくに話しかけてくれたり、頼んだものを席まで運んでくれたりと、サービス精神が素晴らしいのだ。そんな店員の姿に私は憧れを抱き、見習うようになった。そしてアルバイトで接客をしていたある日、お客様から「笑顔が素敵でいいですね」と声をかけていただいた。その時は大変嬉しく跳び

上がるような思いだった。今までアルバイトをしてきた中で一番やり甲斐を感じた。笑顔でいると自分も気持ちが良い、相手も自然に笑顔になる。笑顔っていいなと心から思った。

若い頃「人に道を聞かれるような人になりなさい」と周りの大人からよく言われた。その時はどういう意味なのか分からなかったが、今は自分なりに理解できるようになった。人は知らない人に道を尋ねようとする時、まず顔を見て優しそうの人を選ぶと思うのだ。例えば道を知っていそうでも、眉間にしわを寄せ、無愛想な顔の人に尋ねようとはしない。つまり人は、会ったことも話したこともない人に会話を持ちかける時、見た目で決めることが多いのである。性格が良いと評判でも、仏頂面な人では話しかけにくいし、怖そうな人と印象づけてしまうかもしれない。逆に笑顔で表情が穏やかな人は、話しかけやすく、また、その人の人柄の良さも自然と表情に出てくる。見た目の印象は自分の人柄を表すので、いつも笑顔で心がけている人でありなさい、という意味だったのかなと思い返している。

生きていると、時に嫌な人と出会うこともある。嫌がらせをしてきたり、悪口を言ってきたりと、自分が辛い思いをしたりもする。だが、私はどんな人でも無駄な出会いは無いと思っている。その人との出会いによって善悪を知り、自分がされて嫌なことは他人にもしてはいけない、ということに気づくことが出来るからだ。故に、すべての出会いに意味があり、自分を人として成長させることに繋がるのである。

ロータリークラブには市民の輪を広げ、いい出会いを生む力があると信じている。たくさんの人と出会い、「あの人も明るく頑張っているのだから、自分も頑張ろう」と前を向いて歩き、人生を楽しむ人が増えたら、藤枝がもっと活気づいていくのではないだろうか。土屋先生の「ポコ・ア・ポコ」という言葉のように、小さな努力をコツコツ続けていき、出会った人にパワーを与えることの出来る、明るく輝いた人に私はなりたいと改めて心に誓った。